

図書委員の感想をご紹介 3年生

◆謎解きはディナーのあとで 東川 篤哉/著 小学館

麗子と影山のコミカルな掛け合いが読んでいて面白かった。
また推理小説は読みにくいイメージがあるけどこの本は6つの短編集に分かれているので読みやすく、推理小説が苦手だという人も気楽に楽しめる本じゃないかなと思いました。



◆贖罪 湊 かなえ/著 東京創元社

最後まで読まなければわからない、少女達なりの贖罪の形、
また、“贖罪”という1つの言葉について、深く考えさせられます。
あなたがもしこの本を読んだなら教えてください。
贖罪とは一体何なのでしょう。

◆ユートピア トマス・モア/著 中央公論社

この本はユートピアはある、行けると書いてあるのですが
結果的には実現することは難しく 社会を見つめ直させる
きっかけとなるような深い本です。現実が見れていない
方や社会について興味のある方にオススメの本です。



◆時をかける少女 筒井 康隆/著 角川書店

主人公が自分と歳の近い学生で、舞台が学校になっているので
とても読みやすかったです。主人公が体験した不思議な出来事を
仲間と協力して解明していくのが面白かったです。

◆神様の御用人 浅葉 なつ/著 KADOKAWA

人と神様の関わりについて、古事記の内容をふまえて
温かく書かれている本。狐神「黄金」の食いしん坊な
所も見所！！読み終わると優しい気持ちになれる本です！



◆レインツリーの国 有川 浩/著 新潮社

恋愛のはじまりが1冊の本というのが面白かった。1人の障害を
もったヒロインの恋について描いていて 障害について考えさせられる
小説でした。

図書委員が
おすすめします！

～千葉県立四街道北高等学校～

各クラスから選ばれた図書委員が、放課後のカウンター当番を
分担して学校図書館を支えている千葉県立四街道北高等学校。
毎年9月の文化祭では、クラスごとに推薦図書のパスターを制作し、
発表を行っています。

今年も、図書館で四北高生制作の推薦図書パスターを展示させて
いただくことができました。

高校生のおすすめ本をぜひ、手に取ってみてください



図書委員の感想をご紹介 1年生



◆スターティング・オーヴァー 三秋 隼/著 アスキ・メディアワークス
三秋隼の小説の中では短く、落ちぶれていく主人公の心情や行動にとっても人間味があって面白いです。話もあまり長くないので読書が苦手な人でも読みやすいと思います。

◆バカとテストと召喚獣 井上 賢二/著 エンターブレイン
最下位クラスになった主人公のアホ過ぎる行動とテストの回答に笑わせます。シリアスシーンでも笑わせてきてとても読みやすくなっています。方向性が違う気がしますがラブコメ的な要素が若干、入っていて、そこも含めてとても楽しめる本です。



◆灼眼のシャナ 高橋 弥七郎/著 KADOKAWA
清秋祭とは？ 御崎高校で行われる学校行事。
毎年十月初頭の土日の二日間にわたって行われる。(11巻)

◆世界から猫が消えたなら 川村 元気/著 小学館
アロハと「僕」の会話がとてもおもしろかった。いつも、あたりまえにある物が無い。物の大切さ。「僕」のペットの猫の言葉などがほんとうに感動しました。



◆文豪ストレイドッグス 朝霧 カフカ/著 角川書店
ファンタジックでどんどん話の続きが気になる楽しさがあります。物語の中では敵の芥川龍之介とのバトルが書かれているのですが、それもまたとてもハラハラして臨場感が味わえました。

◆夜が運ばれてくるまでに 時雨沢恵一/文 アスキ・メディアワークス
気にもとめなような、なにげない出来事や考えが、なにげない言葉で書かれている。それなのに、どこか心に響いてくる。何かを考えさせられる。そんな、「心が動く掌編」集です。黒星紅白さんのイラストもステキですよ！



◆十五少年漂流記 ジュール・ヴェルヌ/著 新潮社
個性豊かな少年達がどうやって無人島から脱出するかハラハラ、ドキドキになるストーリーでとてもおもしろかったです。

図書委員の感想をご紹介 2年生



◆喫茶「猫の木」物語 植原 翠/著 マイナビ出版
夏梅とマスターの日常的な会話がなごみ、人間関係の話が出てくると自分にもあてはまり考えさせられるところもあります。時期が過ぎていくと夏梅の気持ちの変化みられてとてもおもしろいです。

◆博士の愛した数式 小川 洋子/著 新潮社
この本を読むと愛情について考えさせられ心がとても温まります。何より数学についての見方がかなり変わります。数学を美しいものだとしりでもこの本を通じて感じてもらえたら嬉しいです。あまり本を読まない人でも読みやすいので是非読んでみてください。



◆みどりのゆび 吉本 ばなな/著 文藝春秋
主人公の祖母が死の直前に言った一言に感動しました。祖母は知るはずのないことを知っていたので不思議に思いました。それはきっと植物を愛し続けていた祖母の「どりのゆび」なんだなと思いました。「体は全部知っている」所収



◆獣の奏者 上橋 菜穂子/著 講談社
母を亡くしてから強く生きていくエリンに強くひかれると思います。引き込まれたら最後、エリンの感じたことや行動が、人生を考えさせてくれる。生きていくことがどれだけ大変ですごいことなのかを考えさせてくれる作品だと思います。



◆君たちはどう生きるか 吉野 源三郎/著 新潮社
著者の文章は分かりやすく、そばにいて語りかけてくれるような、心にしみわたる感じがします。戦前に書かれたにもかかわらず、今なお色あせない良書であり、中高校生にこそ読んでほしい一冊だなと思いました。これをきっかけに人生が変わりました。



◆魔法科高校の劣等生 佐島 勤/著 アスキ・メディアワークス
“魔法”を通じるとは違う方法と支店で描いているので、とても面白いです。登場人物のキャラも個性的なキャラが多いので楽しめると思います。

